



物事に取り組む動機や目的、意識を変えることで、
私たちが普段行っている当たり前のことが、立派な義務先行になるのです。

どです。しかし、単に経済的負担を少なくしたいからというよりは、限りある資源やエネルギーを大切に使用していただく、という心持ちで行うことが肝要です。

このように義務先行は、ひとりよがりな利己心や、あるいは負担としての義務感などの消極的な動機からではなく、他者や社会の幸福のために貢献させていたくという積極的な動機で行うことであるといえます。当番で決まっていることだから仕方なく地域清掃に参加すること、地域社会の一員として明るい街づくりに参画しようと思っただけで参加するのでは、同じ掃除であっても、本人にとっても社会にとっても、その意味合いは大きく異なります。つまり、物事に取り組む動機や目的、意識を変えることで、私たちが普段行っている当たり前のことが、立派な義務先行になるのです。その意味で義務先行の「義務」は、決して「負担」や「重荷」を意味しないのです。

こうした率先した義務先行の精神と遂行は、自らの品性を高めるとともに、自らの生きがいや喜びをもたらしてくれるものでもあるのです。

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は第七章の三の「義務先行の方法」を図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

義務先行を果たすとは

—— 動機を変えればもっと身近に

えしまけんいち
教育研究室研究員 江島頭一

「義務先行とは道徳的な責務を率先して果たしていくことである」と聞くと、少し構えてしまうことはないでしょうか。今号では、義務先行が、私たちにとって、重苦しく難しいことではなく、喜びをもたらす身近でやりがいのあることでもあるということを示したいと思います。

モラロジーでは、私たちの生活は、今を共に生きる人々との支え合いと、先人の献身の上に成り立っていると考えます。こうした人と人との縦横の相互依存・相互扶助の関係を理解することが、義務先行を果たしていく出発点となります。

こうした考え方のもとで、次代を育てることは大事な義務先行のひとつです。例えば、上司として部下を一人前にすることがあてはまります。しかし、社内でのよい評価を得たい、というような私心からではなく、自分もかつて上司に仕事を教えてもらい、育ててもらったから、というような報恩の精神で取り組んでいくことが重要です。

また、社会環境を改善することも義務先行のひとつです。例えば、節電や節水に気をつけるといった身近な環境改善な